

「1万匹の鯉のぼりを武蔵浦和周辺に」 塗り絵、キット配る

「武蔵浦和駅周辺に一万匹の鯉のぼりを掲げよう」。南区の市民らが中心になりこんな壮大な計画が進んでいる。

手がけたのは駅前の高層マンション「ラムザタワー」に住む田中和義さん(50)ら、「むさしうらわ街づくり協議会」のメンバー。早朝五時半の埼京線で都内大田区に勤務する典型的な「埼玉都民」の田中さんは「鯉のぼりをきっかけに、この地域で人と人の顔が見える関係を築きたい」と話す。

■ 駅前に響く元気な声

「鯉のぼりで町づくりをしてみませんか」。毎週土曜日と日曜日、駅前のショッピングセンターで、家族連れに鯉のぼりを配布するむさしうらわ街づくり協議会メンバーの元気な声が響く。

鯉のぼりは塗り絵用の台紙が無料、紙製のキットが二百円、ナイロン製が五百円。購入した住民が色を塗ったり、好きな模様をデザインして持ち寄り、五月一日から五日まで駅前を中心に周辺の商店や幼稚園に掲げる。

同協議会は昨年七月に結成。田中さんが代表のNPO法人「むさしうらわ街ネット」をはじめ「さいたまNP Oセンター」「こども劇場おやこ劇場埼玉センター」など七団体が所属、これまで放置自転車対策や防犯、防災の町づくりを進めてきた。

■ 2万人の街づくり

武蔵浦和駅周辺は全体を九街区に分けた再開発が進行中で、一九九八年にリーディングプロジェクトとしてラムザタワーが完成。今後も六十一階建ての超高層マンションなど集合住宅が次々にできる予定で、田中さんによれば約二万人が住む新たな街になる。

「新しい町だから、ぼくたちが頑張れば変えていける」と田中さん。「鯉のぼりを作る作業に地域の住民が参加することで、町づくりのきっかけにしたい」と話す。

ラムザタワーの住民で組織するラムザ自治会(三百二十六世帯)会長の経龍夫さん(46)も活動に参加する。「自分が楽しく、かつみんなが楽しめることをやりたかった」と言う。

同自治会はクラブ活動が盛ん。鯉のぼりを作る端午クラブのほか、手作りのお雛様を飾った桃クラブ、映画を上映するシネマクラブもある。

■ 次第に広がる輪

むさしうらわ街ネット会員で幼稚園講師の村田利美子さんは、絵本の読み聞かせサークルのお母さんたちにナイロン製の鯉のぼりを縫ってもらった。「制作を通して仲間づくりの輪が広がった」と話す。

一万匹の鯉のぼりを集めるのは容易ではない。街づくり協議会は街頭で呼び掛けるだけでなく、幼稚園や保育園、駅周辺の事業所や商店にも協力を依頼している。

協議会は二十四日に田島公民館、二十五日に別所公民館で鯉のぼりの歴史講座と塗り絵を使った鯉のぼりの作製を行う。時間はいずれも午前十時から。参加無料。

問い合わせは、むさしうらわ街ネット(048・837・1523)へ。

<http://www.634urawa.net>

【WEB埼玉ホームへ】

ニュースの詳細は埼玉新聞でどうぞ。購読申し込みは[こちら](#)
フリーダイヤル 0120-633-888

saitama-np.co.jpの記事・写真の無断転載を禁じます。
日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright 2004 The SaitamaShimbun